



令和6年度（2024年度）くまもと県民カレッジ主催講座【後期】

# 大人の読書コース

## 新たな読書体験との出会い ～本でつながるトモダチの輪～

読書には語彙力・文章力が向上するだけでなく、記憶力の向上やストレス解消等、様々な効果が挙げられます。また、感情の理解や共感力を育むことにもつながります。これらの能力は、日常生活や仕事、人間関係の質を向上させるために不可欠な要素と言えます。本講座では、読書活動に関する情報を得るとともに、図書館の新たな役割についても知り、豊かな読書生活につながる、本の魅力に触れました。



第2回「こども本の森 熊本」現地学習風景

### 第1回

### 本の魅力とは？

11月15日(金) ～本を通して人に寄り添う司書のはなし～

くまもと森都心プラザ図書館  
館長 石本 美夏 氏

司書の1日の仕事(他館から戻ってきた本の処理、予約された本の確保作業、排架、修理作業、おはなし会、レファレンス他)や、本の魅力を伝える方法(選書、棚づくり、イベント、展示)等。真摯に営む図書館の舞台裏を、わかりやすく写真やデータとともに紹介されました。



### 第2回

### 「こども本の森 熊本」へようこそ

11月22日(金) ※現地学習

熊本県立図書館 副館長 兼  
こども本の森 熊本 館長 飯塚 暁子 氏

令和6年4月に建築家・安藤忠雄氏より寄贈され開館した同館の現地学習。曲線・光・緑…3つの建築の特長や、放送作家・小山薫堂氏監修の、ロゴマークやくまモンあのねポストの説明他、10のテーマに分類された本の配置のこだわりなど、館内を一緒に巡りながら解説。



### 第3回

### 本の歴史

11月29日(金) ～印刷から装丁まで～

(有) 舒文堂河島書店  
代表取締役 河島 一夫 氏

日本の書物の横綱・日本書紀から江戸時代に読まれた出版物、奈良時代から江戸時代に、紙を使って「書かれたもの」「刷られたもの」を紹介。クイズなども交え、本の成り立ちや出版の流れを解説。大河ドラマの主人公、篤屋重三郎についてもお話されました。



(写真・左上) 手彫りの版板の説明をする河島先生。(写真・右) 里見八犬傳、桃太郎…。舒文堂河島書店からご持参いただいた本物や複製本の数々。(写真・左下) 見て触れて、ページをめくって、興味津々の受講生の皆様。



▲壁全面に張り巡らされた色とりどりの絵本に迎えられ「わぁ！」と歓声があがりました。県産ヒノキの香りに包まれ、視覚からも嗅覚からも居心地の良さを感じました。



▲現地学習の解説の後は、読書タイム。気になる絵本を手に取り、テラスや小窓の前など、好きな場所に腰掛けて、思い思いにゆったりと絵本の世界に入りました。

### 第4回

### これからの図書館

12月6日(金) ～交流拠点「人々がつながる場」～

菊池市立図書館  
副館長 長尾 美穂 氏

県内で最初に図書館ができた地・菊池。同館は、米インテリア雑誌で「ゆっくり過ごしたい世界の12の図書館・書店」に日本で唯一選出され、図書通帳などここならではの活動も話題に。その歩みを軸に、市民が誇れる市民にとって世界一の図書館を目指す思いや取組を伺いました。



### 第5回

### 私と本の関わり

12月13日(金) ～いろんな世界を知るきっかけに～

カライモブックス 奥田 直美 氏

地元京都から水俣へ。18歳で出会った石牟礼文学に、悩みながら求めていた人生の本質を感じ、縁が巡って、石牟礼道子さんの旧家で、ご夫婦で古本屋を営むにいたった経緯をお話されました。また、旧家近くの、大廻の塘、水俣大橋などが登場する石牟礼作品を引用し、写真とあわせて紹介されました。



### 受講生の感想

- 司書の方はじめ、図書館にかかわるスタッフの方々の日々の努力を学び、これからも感謝しつつ図書館を利用したいと思います。
- 「大人の読書」というテーマで、各々の立場からのお話がとてもおもしろかった。これまで知らなかった事を聴くことができた。

